# Ⅲ　調 査 の 結 果

## 1　暮らし向き

### 問１　暮らし向き

お宅の暮らし向きは、昨年の今ごろに比べて良くなりましたか。それとも悪くなりましたか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

| | | (%) |
|---|---|---|
| 1 | かなり良くなった | 0.7 |
| 2 | すこし良くなった | 4.2 |
| 3 | 変わらない | 49.8 |
| 4 | すこし悪くなった | 32.1 |
| 5 | かなり悪くなった | 11.5 |
| 6 | わからない | 1.8 |

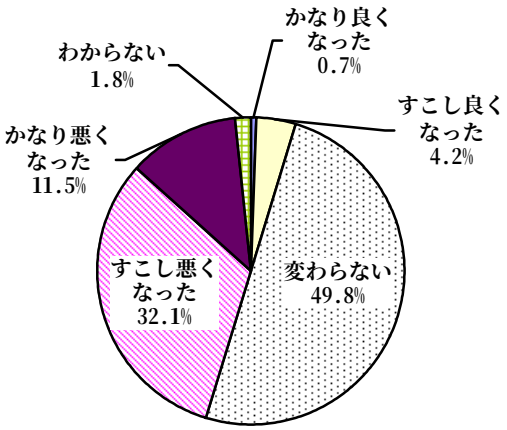
それは主にどういう理由によるものですか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

（N＝３８８）

| | | (%) |
|---|---|---|
| 1 | 日常の生活費が増えた | 11.3 |
| 2 | 収入が減った（働き手が減った） | 54.4 |
| 3 | 営業不振、営業経費が増えた | 9.8 |
| 4 | 教育費が増えた | 7.0 |
| 5 | 特別事情による（結婚、出産、病気、災害など） | 9.3 |
| 6 | その他 | 7.7 |
| 7 | わからない | 0.5 |

暮らし向きが昨年に比べて「良くなった」と思うか、それとも「悪くなった」と思うかを聞いたところ、「変わらない」と答えた人の割合が49.8%とほぼ半数を占めている。

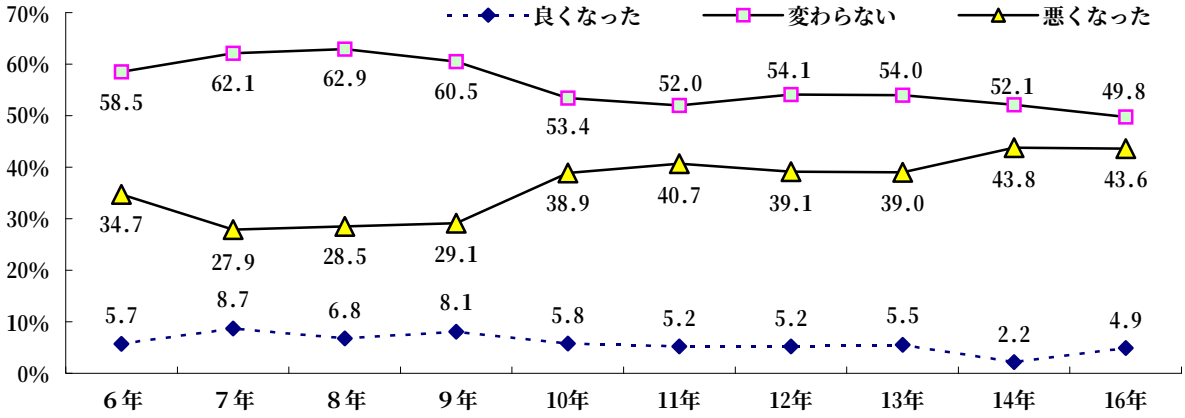
また、「良くなった」（「かなり良くなった」及び「すこし良くなった」）と答えた人の割合は4.9%で、「悪くなった」（「すこし悪くなった」及び「かなり悪くなった」）と答えた人の割合は43.6%であった。




(悪くなった　43.6%)　　(良くなった　4.9%)

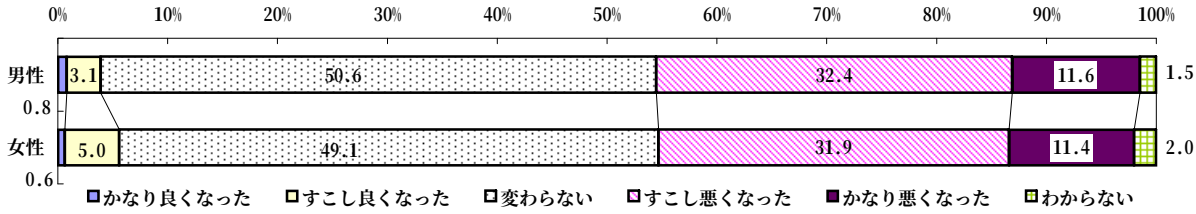
【経年変化】

経年変化をみると、「良くなった」と答えた人の割合は、平成１４年調査（以下「前回調査」という。）よりも2.7ポイント増加し、「悪くなった」と答えた人の割合は0.2ポイント減少しており、平成６年以降の調査で、「変わらない」と答えた人の割合が初めて50%を下回り、前回調査で「良くなった」が過去最低であったが回復傾向にある。



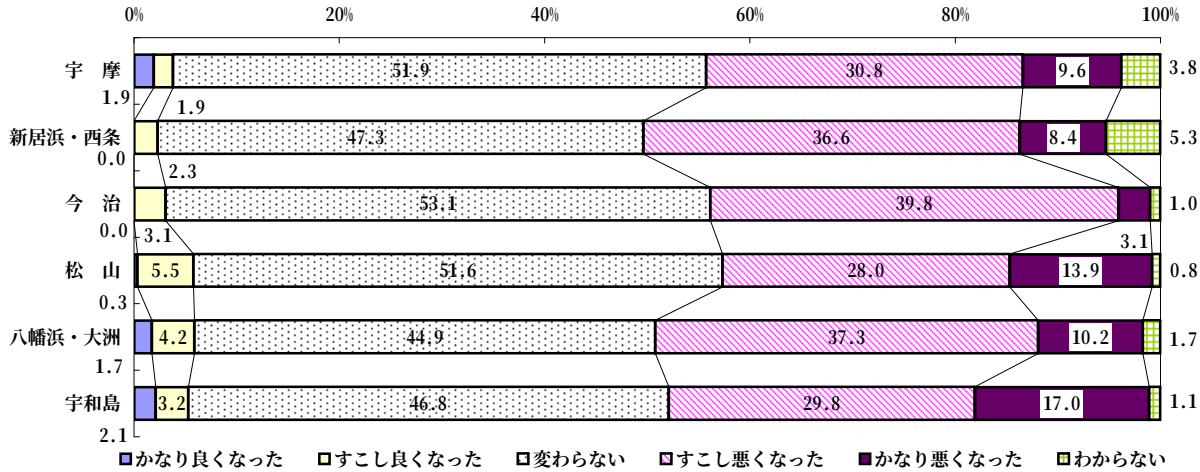

【性別】

性別にみると、「良くなった」と答えた人の割合は女性で高くなっている。



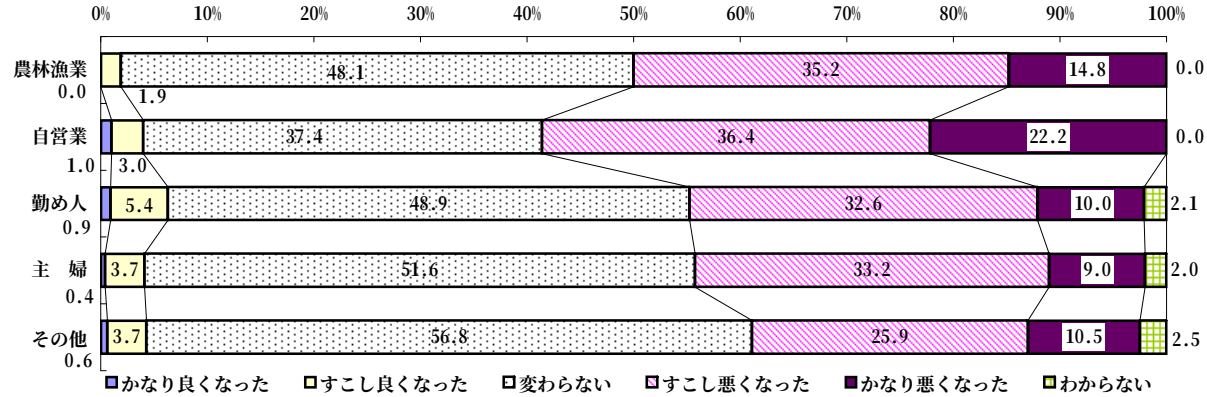

【生活圏域別】

生活圏域別にみると、「良くなった」と答えた人の割合は八幡浜・大洲圏域、松山圏域で、「悪くなった」は八幡浜・大洲圏域、宇和島圏域で高くなっている。



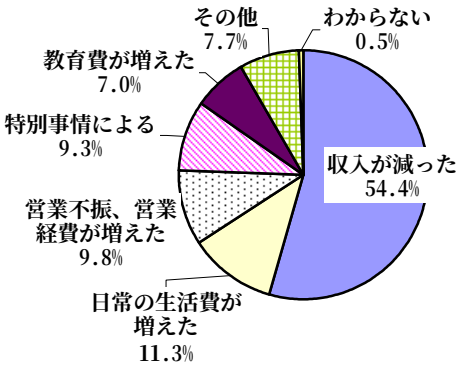

【職業別】

職業別にみると、「良くなった」と答えた人の割合は勤め人で、「悪くなった」は自営業で最も高くなっている。



《暮らし向きが悪くなった理由》

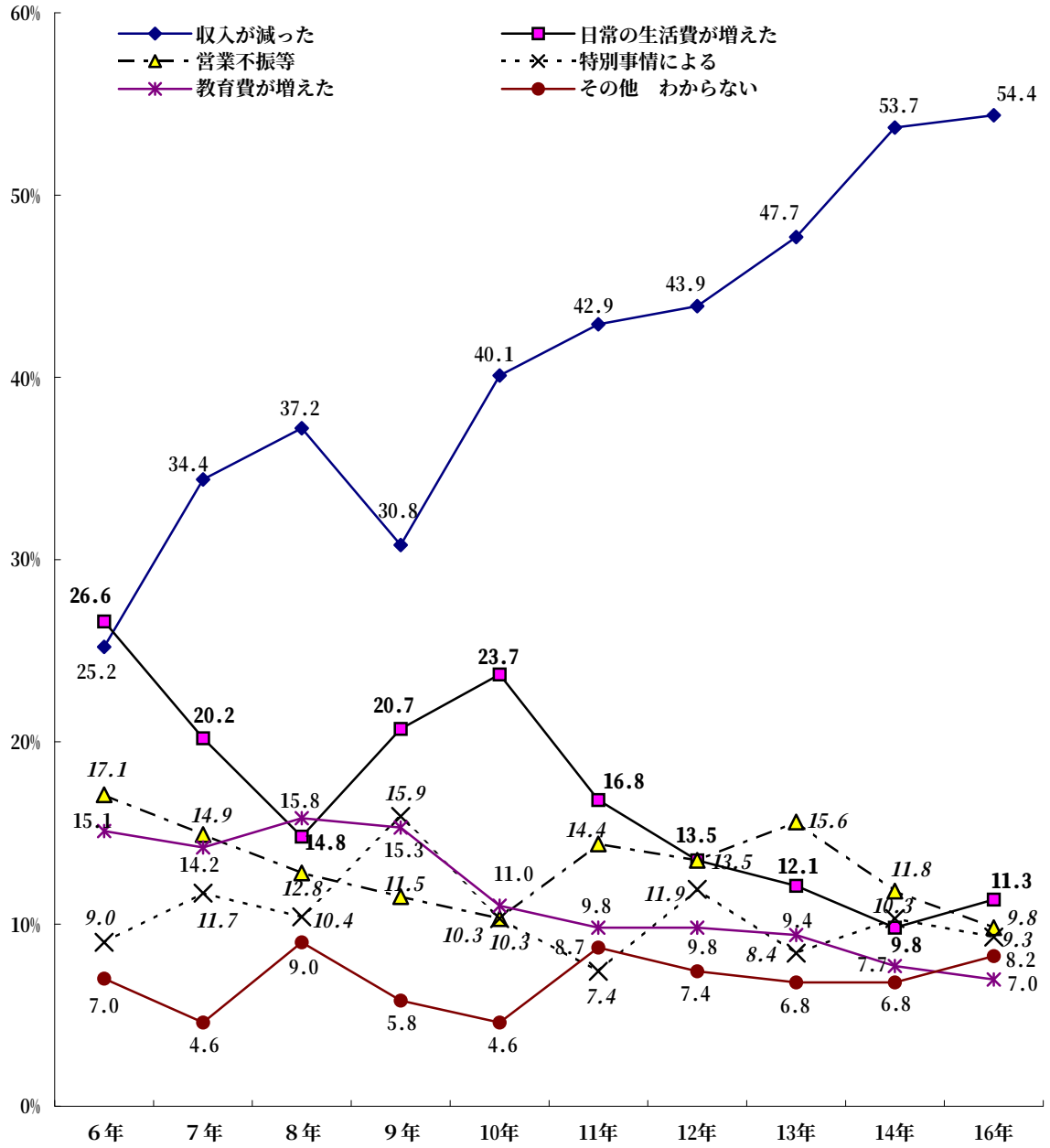
暮らし向きが「悪くなった」と答えた人に、その主な理由を聞いたところ、「収入が減った（働き手が減った)」(54.4%）が特に高く、以下「日常の生活費が増えた」（11.3%）、「営業不振、営業経費が増えた」（9.8%）、「特別事情による（結婚、出産、病気、災害など）」（9.3%）「教育費が増えた」（7.0%）の順となっている。




【経年変化】

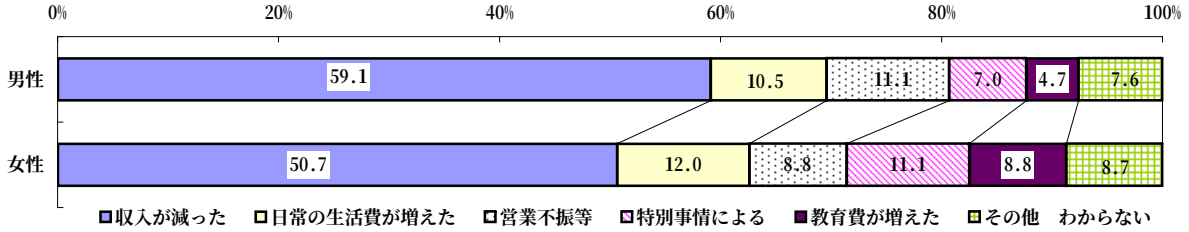
経年変化をみると、暮らし向きが悪くなった理由のうち「収入が減った（働き手が減った）」が前回調査に比べ0.7ポイント増加し、９回連続で第１位となっている。

また、「日常の生活費が増えた」が1.5ポイント増加し、「特別事情による」、「営業不振等」、「教育費が増えた」は、いずれも減少している。



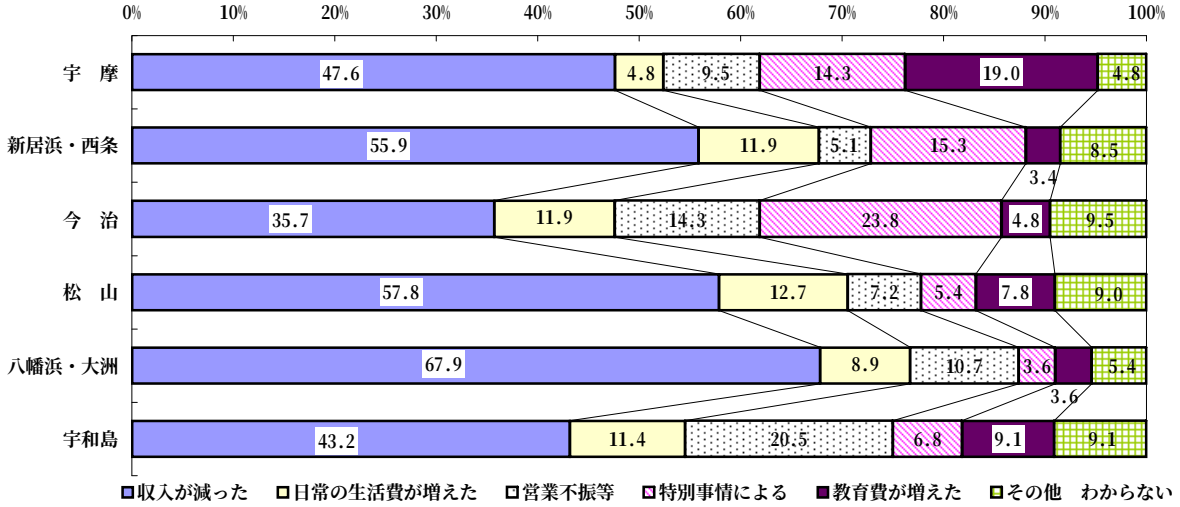
【性別】

性別にみると、いずれも「収入が減った」と答えた人の割合が最も高いが、「日常の生活費が増えた」、「特別事情による」、「教育費が増えた」は女性で、「収入が減った」、「営業不振等」は男性で、それぞれ高くなっている。




【生活圏域別】

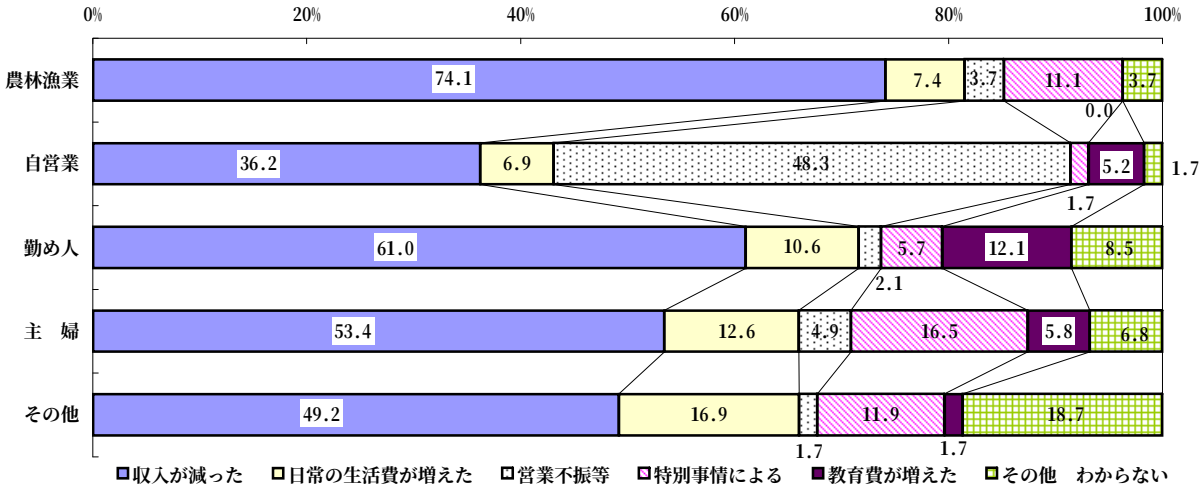
生活圏域別にみると、「収入が減った」と答えた人の割合は八幡浜・大洲圏域で、「営業不振、営業経費が増えた」は宇和島圏域で、「教育費が増えた」は宇摩圏域で最も高くなっている。




【職業別】

職業別にみると、自営業では「営業不振、営業経費が増えた」（48.3%）と答えた人の割合が最も高く、その他の職業では「収入が減った（働き手が減った）」と答えた人の割合が最も高くなっている。

また、「教育費が増えた」と答えた人の割合は勤め人(12.1%)が他の職業と比較して高く、「特別事情による」と答えた人の割合は、主婦(16.5%)が他の職業と比較して高くなっている。



## 問２　暮らし向きの変化

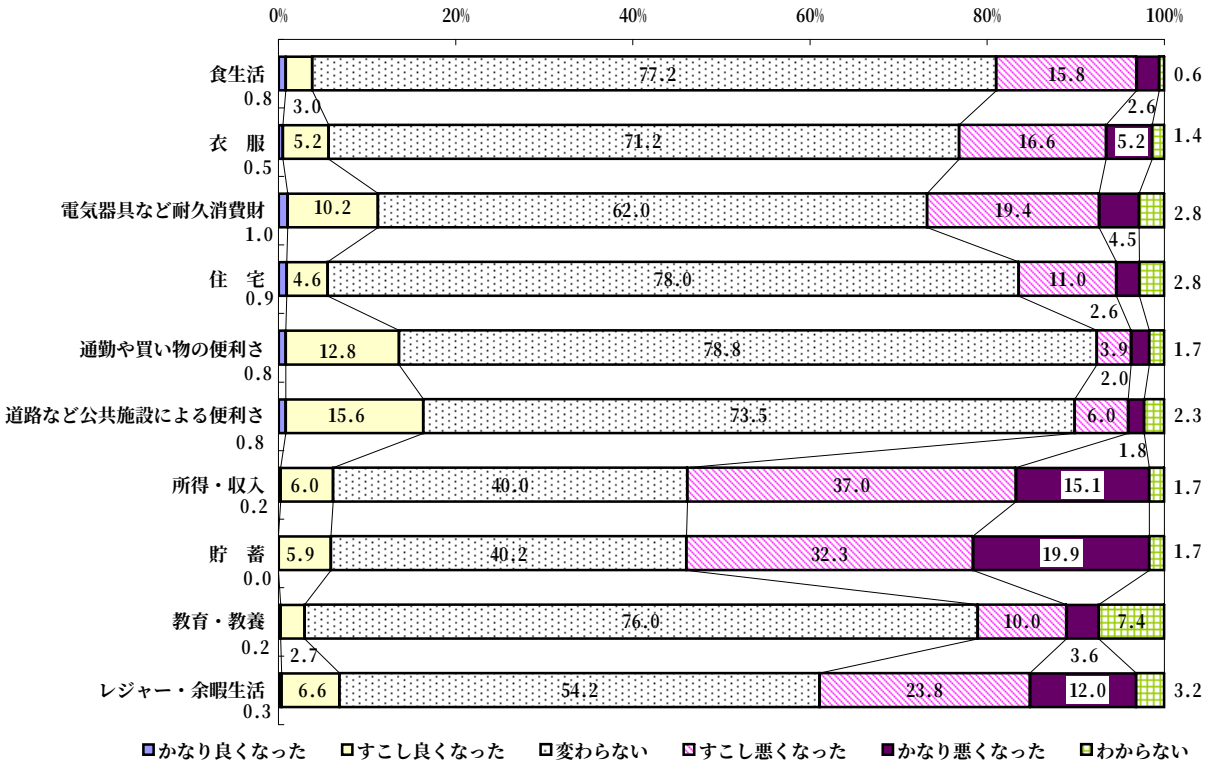
お宅の暮らしの中で、次の各項目は、昨年の今ごろに比べ良くなりましたか。それとも悪くなりましたか。項目ごとにそれぞれ該当するものを一つずつ選んで番号を○で囲んで下さい。

| 項　　目 | かなり良くなった | すこし良くなった | 変わらない | すこし悪くなった | かなり悪くなった | わからない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | (%) | (%) | (%) | (%) | (%) | (%) |
| 1　食生活 | 0.8 | 3.0 | 77.2 | 15.8 | 2.6 | 0.6 |
| 2　衣服 | 0.5 | 5.2 | 71.2 | 16.6 | 5.2 | 1.4 |
| 3　電気器具、家具、自動車など耐久消費財 | 1.0 | 10.2 | 62.0 | 19.4 | 4.5 | 2.8 |
| 4　住宅 | 0.9 | 4.6 | 78.0 | 11.0 | 2.6 | 2.8 |
| 5　通勤や買い物の便利さ | 0.8 | 12.8 | 78.8 | 3.9 | 2.0 | 1.7 |
| 6　道路など公共施設による便利さ | 0.8 | 15.6 | 73.5 | 6.0 | 1.8 | 2.3 |
| 7　所得・収入 | 0.2 | 6.0 | 40.0 | 37.0 | 15.1 | 1.7 |
| 8　貯蓄 | 0.0 | 5.9 | 40.2 | 32.3 | 19.9 | 1.7 |
| 9　教育・教養 | 0.2 | 2.7 | 76.0 | 10.0 | 3.6 | 7.4 |
| 10　レジャー・余暇生活 | 0.3 | 6.6 | 54.2 | 23.8 | 12.0 | 3.2 |

暮らしの各面から10項目を取り上げ、昨年に比べて「良くなった」（「かなり良くなった」及び「すこし良くなった」)か、あるいは「悪くなった」(「すこし悪くなった」及び　「かなり悪くなった」）かをそれぞれ聞いたところ、「所得・収入」、「貯蓄」の項目においては「悪くなった」と答えた人の割合が最も高くなっている。

「良くなった」と答えた人の割合が比較的高い項目としては「道路など公共施設による便利さ」（16.4%）、「通勤や買物の便利さ」（13.6%）、「電気器具、家具、自動車など耐久消費財の面」（11.2%）などが挙げられる。

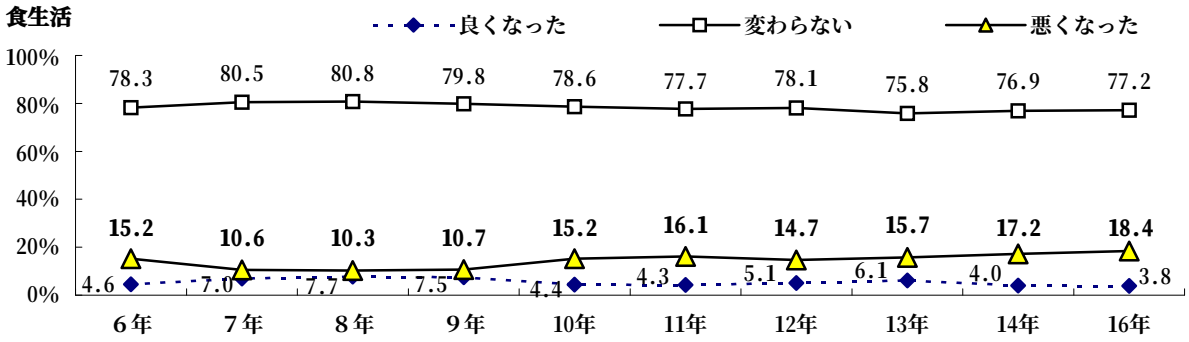
一方「悪くなった」と答えた人の割合は、「貯蓄」（52.2%）、「所得・収入」(52.1%)、「レジャー・余暇生活」（35.8%）の順で高くなっている。

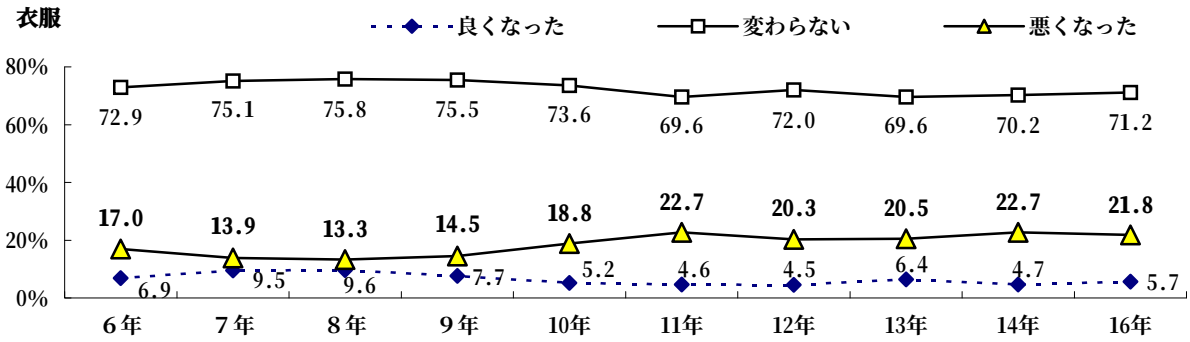



## 【経年変化】

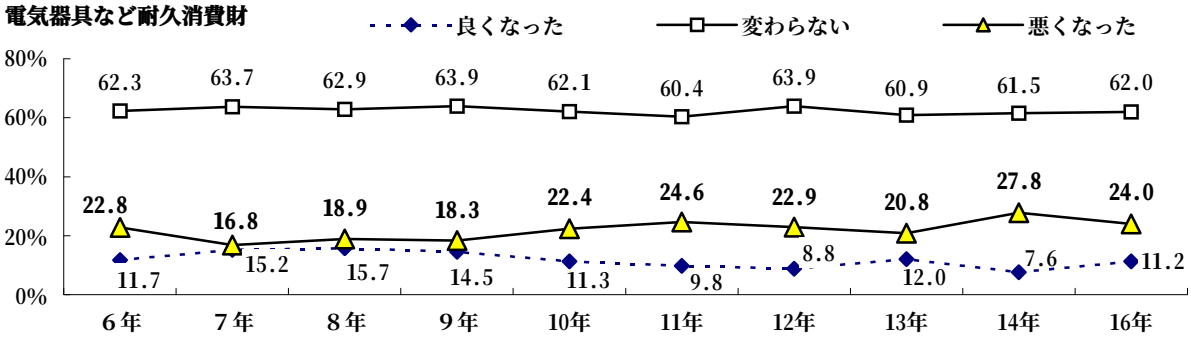
経年変化をみると、「所得・収入」、「貯蓄」は「悪くなった」と答えた人の割合が最も高く、それ以外の項目では「変わらない」と答えた人の割合が最も高くなっている。

なお、前回調査と比べると、「食生活」以外の項目において「良くなった」と答えた人の割合は増加しており、「所得・収入」、「貯蓄」、「食生活」、「レジャー・余暇生活」以外の項目では、「悪くなった」と答えた人の割合は減少している。

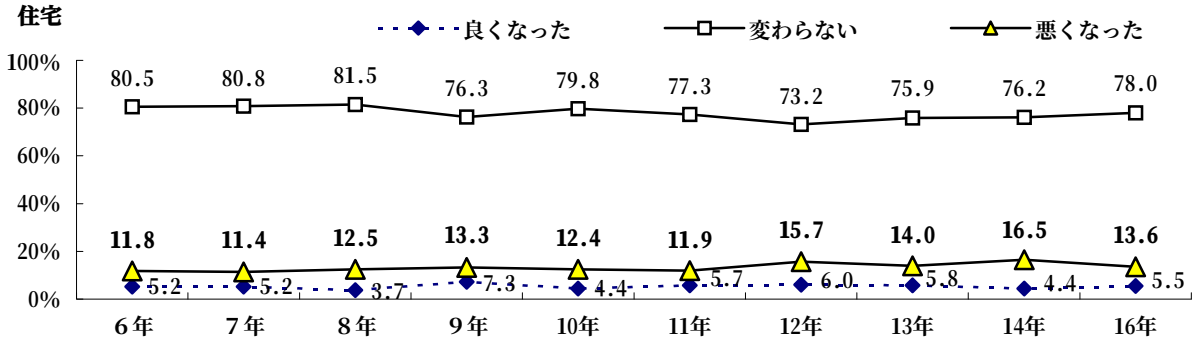


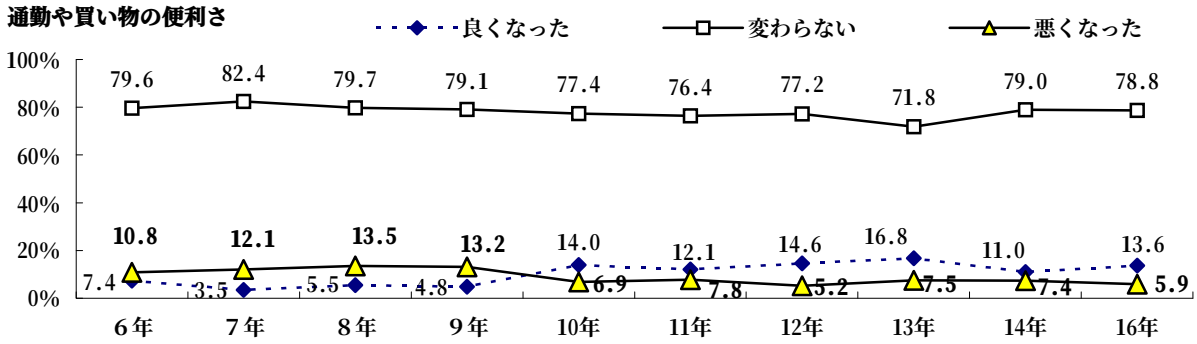
**電気器具など耐久消費財**



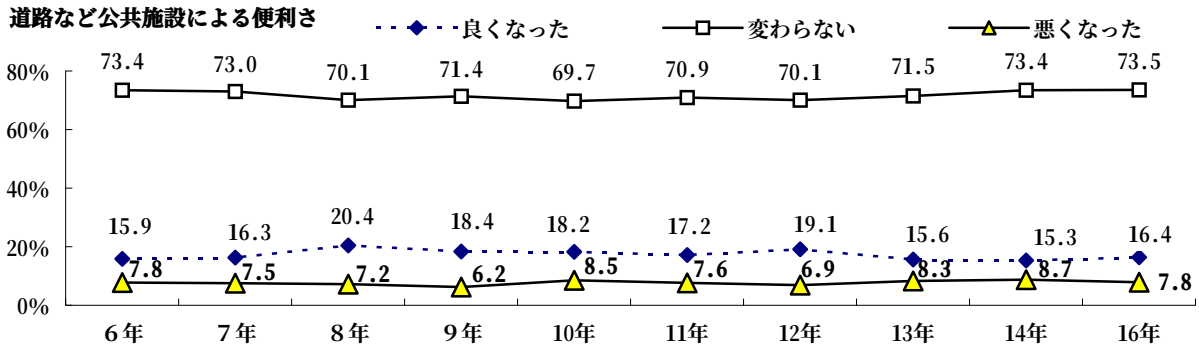

**住宅**

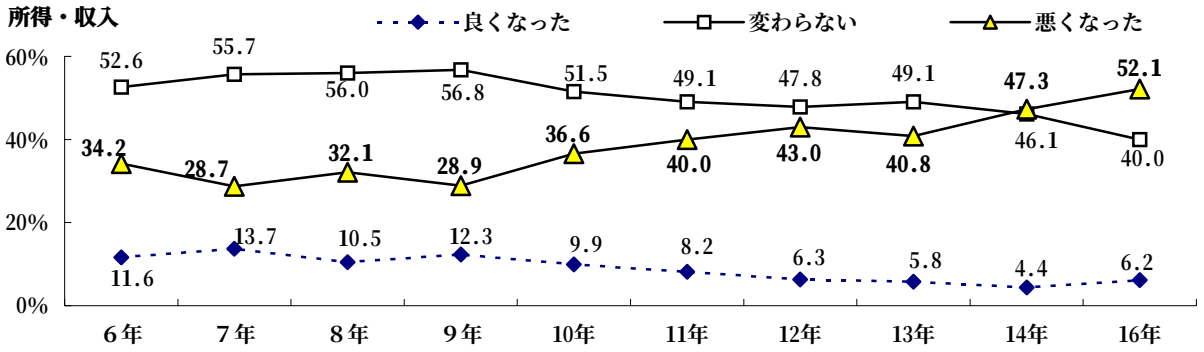


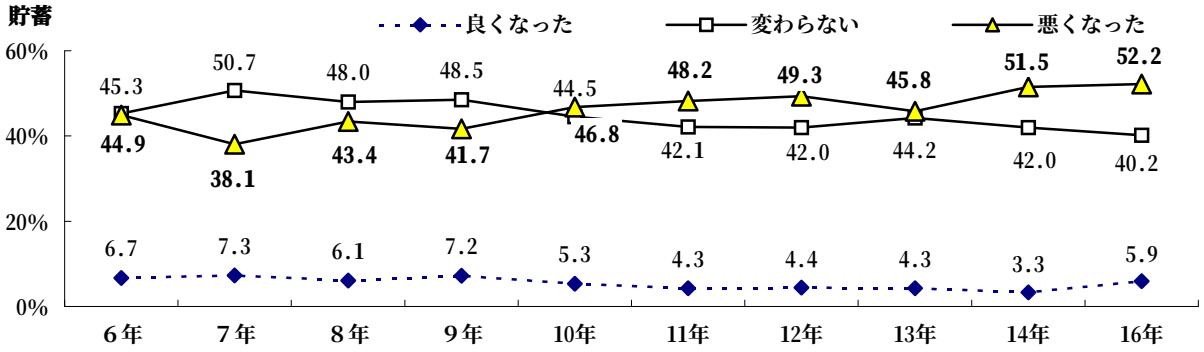

**通勤や買い物の便利さ**

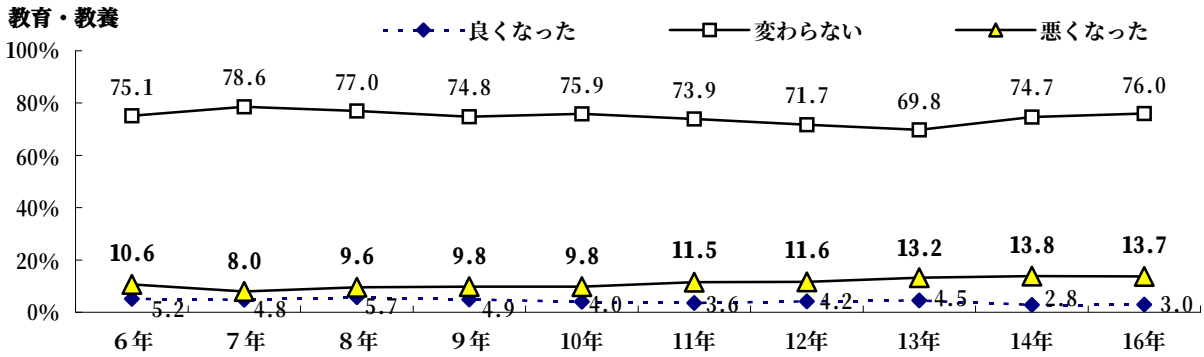


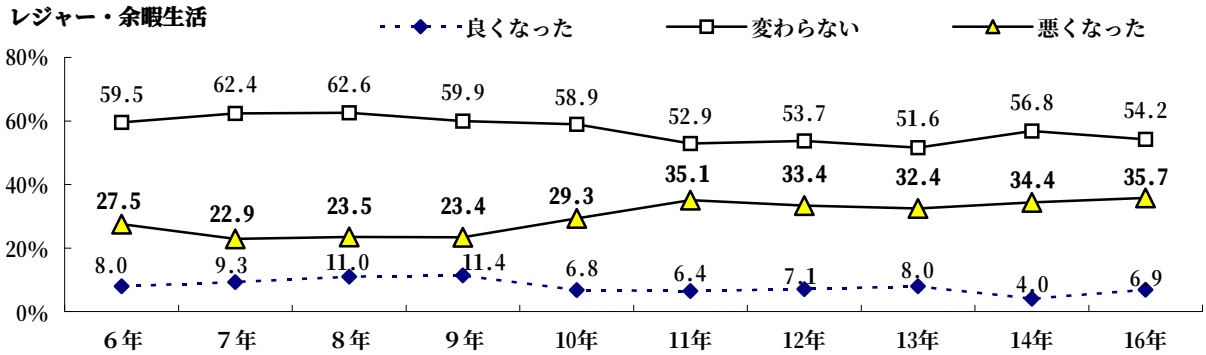

**道路など公共施設による便利さ**




所得・収入
良くなった
変わらない
悪くなった
60%
40%
20%
0%
52.6 55.7 56.0 56.8 51.5 49.1 47.8 49.1 47.3 52.1
34.2 28.7 32.1 28.9 36.6 40.0 43.0 40.8 46.1 40.0
11.6 13.7 10.5 12.3 9.9 8.2 6.3 5.8 4.4 6.2
6年 7年 8年 9年 10年 11年 12年 13年 14年 16年


貯蓄
良くなった
変わらない
悪くなった
60%
40%
20%
0%
45.3 50.7 48.0 48.5 44.5 48.2 49.3 45.8 51.5 52.2
44.9 38.1 43.4 41.7 46.8 42.1 42.0 44.2 42.0 40.2
6.7 7.3 6.1 7.2 5.3 4.3 4.4 4.3 3.3 5.9
6年 7年 8年 9年 10年 11年 12年 13年 14年 16年


教育・教養
良くなった
変わらない
悪くなった
100%
80%
60%
40%
20%
0%
75.1 78.6 77.0 74.8 75.9 73.9 71.7 69.8 74.7 76.0
10.6 8.0 9.6 9.8 9.8 11.5 11.6 13.2 13.8 13.7
5.2 4.8 5.7 4.9 4.0 3.6 4.2 4.5 2.8 3.0
6年 7年 8年 9年 10年 11年 12年 13年 14年 16年

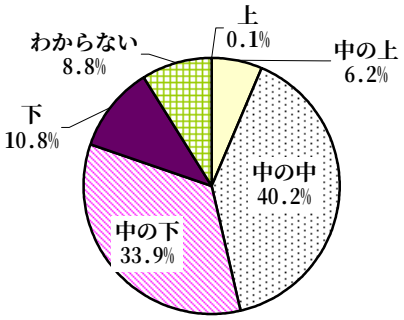

レジャー・余暇生活
良くなった
変わらない
悪くなった
80%
60%
40%
20%
0%
59.5 62.4 62.6 59.9 58.9 52.9 53.7 51.6 56.8 54.2
27.5 22.9 23.5 23.4 29.3 35.1 33.4 32.4 34.4 35.7
8.0 9.3 11.0 11.4 6.8 6.4 7.1 8.0 4.0 6.9
6年 7年 8年 9年 10年 11年 12年 13年 14年 16年

## 問３　暮らし向きの程度

お宅の暮らしの程度は、世間一般からみて、次のどれに入ると思いますか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

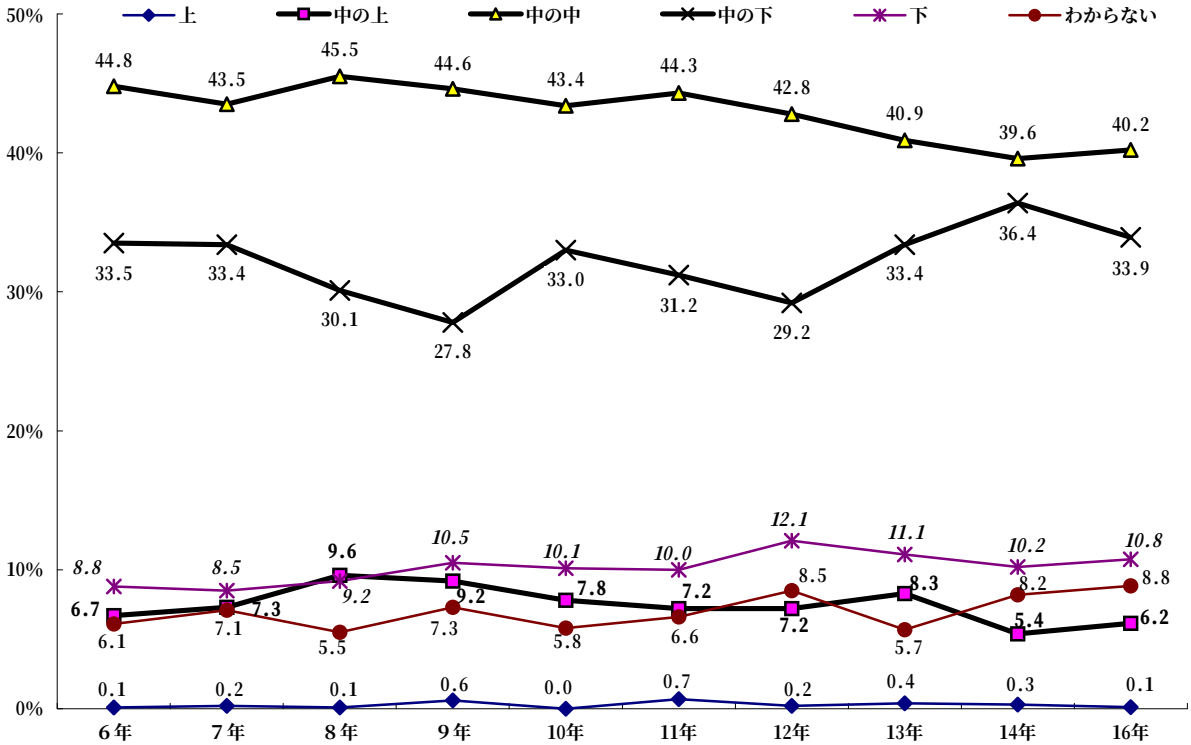
| | | （%） |
|---|---|---|
| 1 | 上 | 0.1 |
| 2 | 中の上 | 6.2 |
| 3 | 中の中 | 40.2 |
| 4 | 中の下 | 33.9 |
| 5 | 下 | 10.8 |
| 6 | わからない | 8.8 |

暮らし向きの程度を世間一般からみてどの程度だと思っているかを聞いたところ、「中の中」と答えた人の割合が40.2%と最も多く、「中の上」と答えた人（6.2%）及び「中の下」と答えた人（33.9%）の割合とを合わせて80.3%の人が中流意識を示している。
また、「上」と答えた人の割合は 0.1%、「下」と答えた人の割合は10.8%であった。




【経年変化】

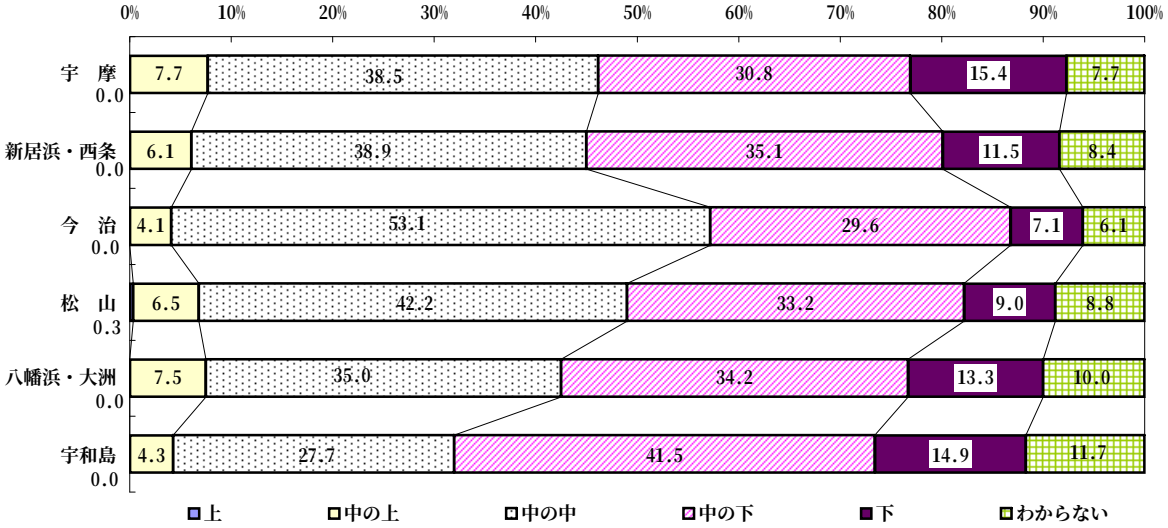
経年変化をみると、県民の中流意識は引き続き強く、いずれの調査年においても、８割程度の人が、自分の家庭の暮らし向きの程度を中程度だと評価しているが、前回調査と比べ「中の下」と答えた人の割合は、2.5ポイント減少し、「中の上」と答えた人の割合は0.8ポイント増加している。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、宇和島圏域は「中の下」（41.5%）と答えた人の割合が最も高く、他の生活圏域は「中の中」と答えた人の割合が最も高くなっている。

また、宇摩圏域では、「下」（15.4%）と答えた人の割合が他の生活圏域と比べて高くなっている。



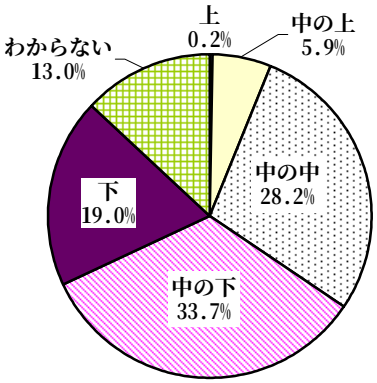
## 問４　資産の程度

それでは、お宅の資産（土地、家屋、預貯金等）は、世間一般からみて、次のどれに入ると思いますか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

| | | (%) |
|---|---|---|
| 1 | 上 | 0.2 |
| 2 | 中の上 | 5.9 |
| 3 | 中の中 | 28.2 |
| 4 | 中の下 | 33.7 |
| 5 | 下 | 19.0 |
| 6 | わからない | 13.0 |

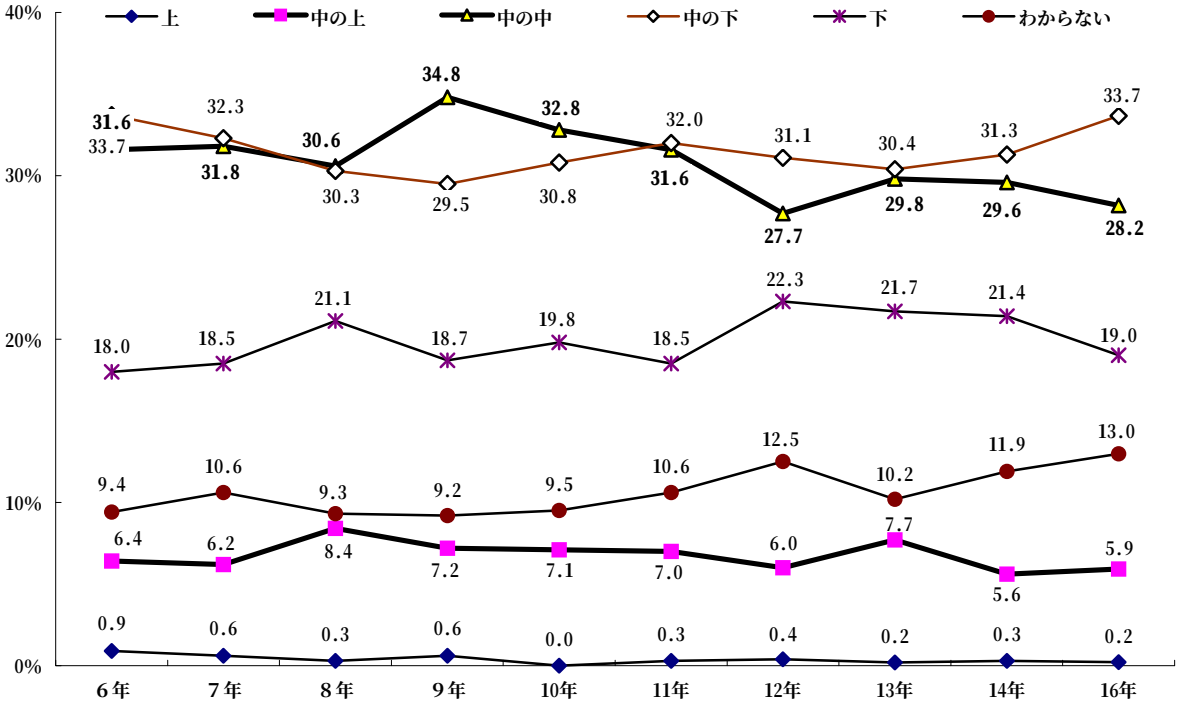
資産（土地、家屋、預貯金等）の程度を世間一般からみてどの程度だと思っているかを聞いたところ、「中の下」（33.7%）又は「中の中」（28.2%）と答えた人の割合が特に高く、これに「中の上」（5.9%）を加えると、67.8%の人が中流意識を示している。

また、「上」と答えた人の割合は 0.2%、「下」と答えた人の割合は19.0%であった。




【経年変化】

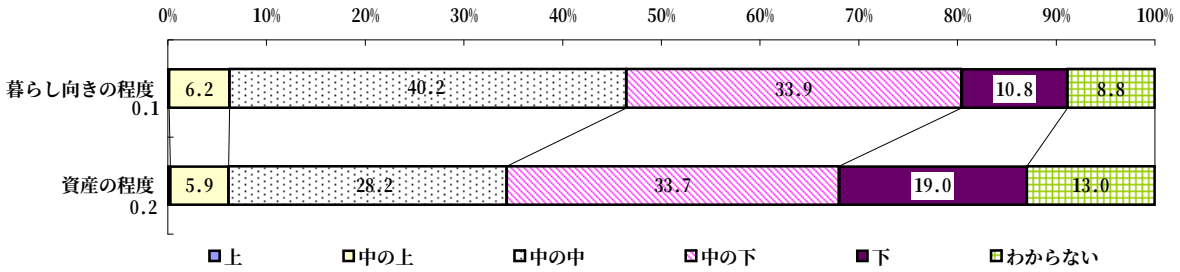
経年変化をみると、県民の中流意識は引き続き強いが、前回調査と比較すると、「中の中」、「下」は減少し、「中の下」は増加している。



【暮らし向きの程度と資産の程度】

暮らし向きの程度と資産の程度の分布状況をみると、いずれも「中の中」、「中の下」と答えた人の割合が高く、「中の中」と答えた人の割合は、暮らし向きの程度の方が12.0ポイント高くなっている。

また、「下」と答えた人の割合は、資産の程度の方が 8.2ポイント高くなっており、中流意識は資産の程度（67.8%）よりも暮らし向きの程度（80.3%）の方が高く、これまでの調査でもそうであるが、両者の間にアンバランスが生じていることがうかがえる。



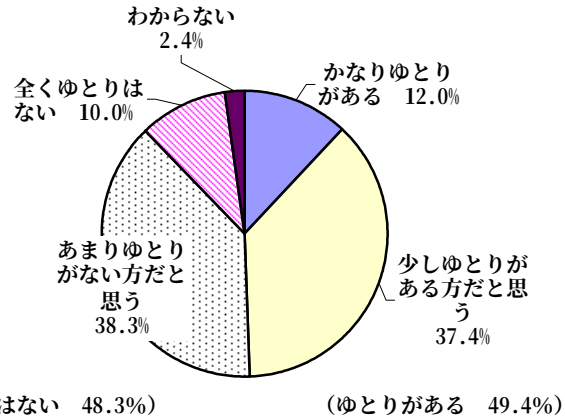
## 問５　生活のゆとり感

では、あなたは、普段の生活で時間的なゆとりがある方だと思いますか。それともない方だと思いますか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

（%）

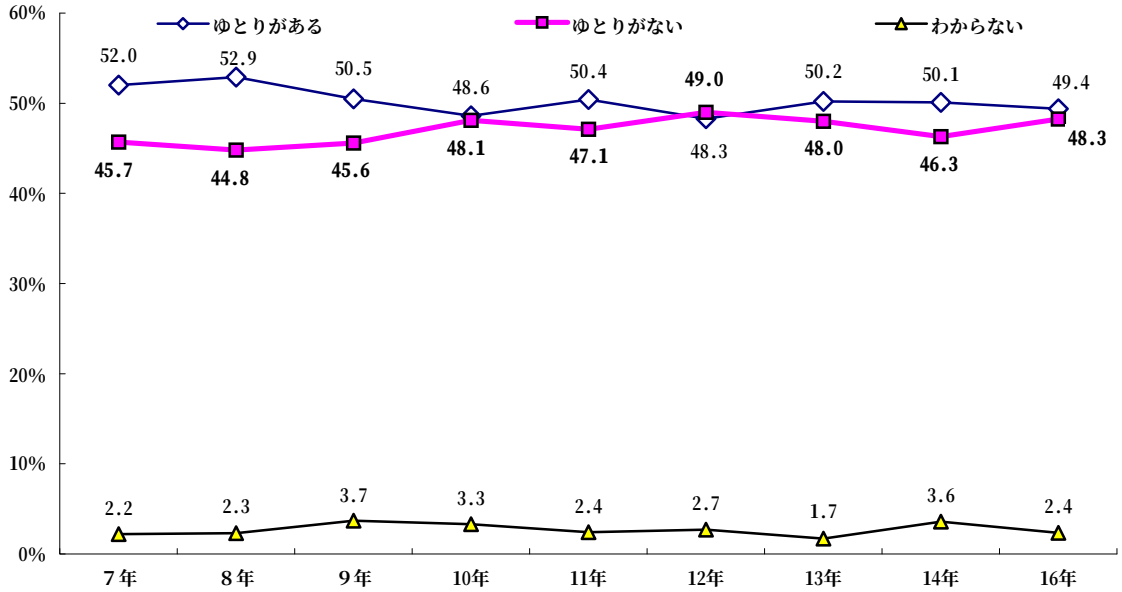
| | | |
|---|---|---|
| 1 | かなりゆとりがある | 12.0 |
| 2 | 少しゆとりがある方だと思う | 37.4 |
| 3 | あまりゆとりがない方だと思う | 38.3 |
| 4 | 全くゆとりはない | 10.0 |
| 5 | わからない | 2.4 |

普段の生活における時間的なゆとりの有無について聞いたところ、「かなりゆとりがある」（12.0%）及び「少しゆとりがある方だと思う」（37.4%）と答えた人の割合を合わせて49.4%の人は、時間的な「ゆとりがある」と考え、「ゆとりがない」（「あまりゆとりがない方だと思う」（38.3%）及び「全くゆとりはない」（10.0%））と答えた人の48.3% をやや上回っている。




【経年変化】

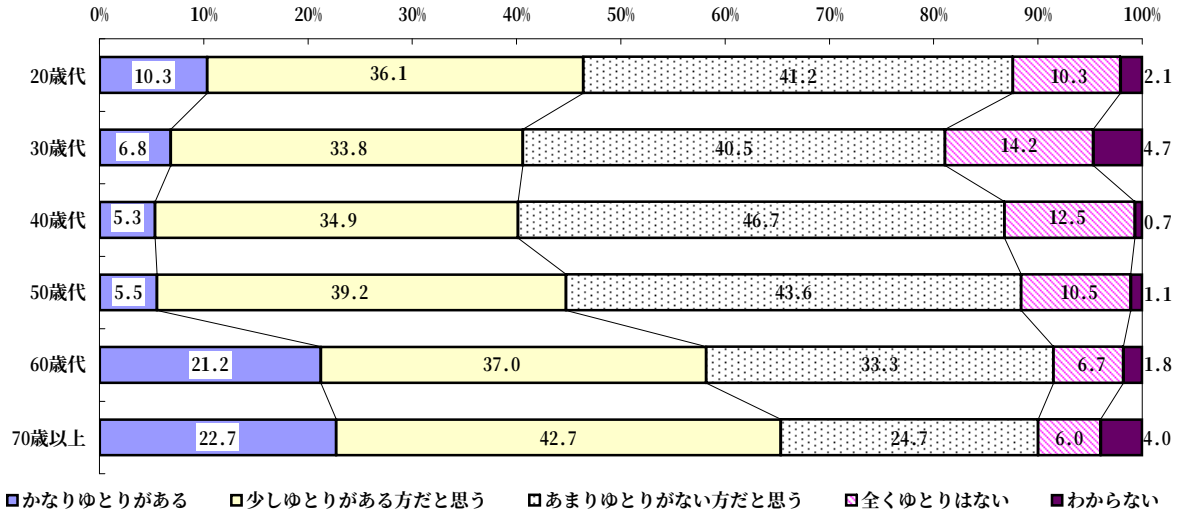
経年変化をみると、前回調査に比べ、「ゆとりがない」と答えた人の割合が2.0ポイント増加している。

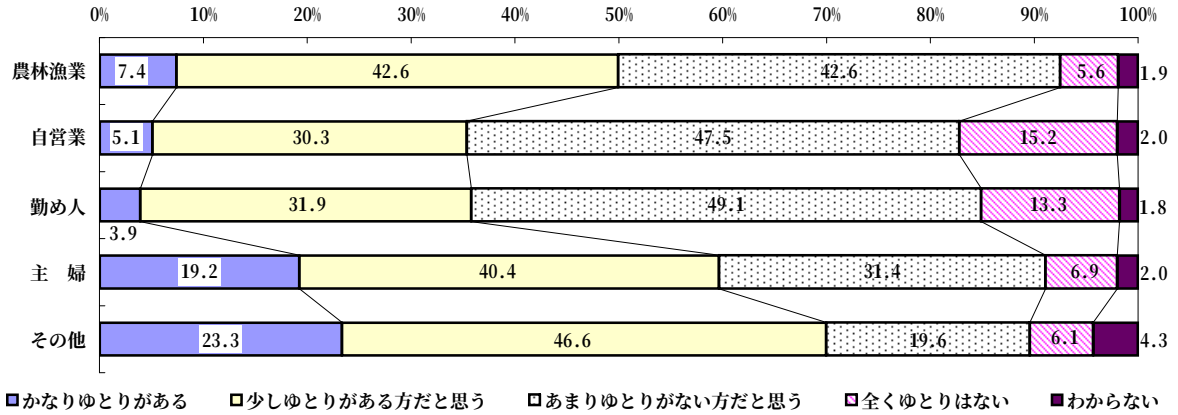


【年齢別】

年齢別にみると、「ゆとりがある」と答えた人の割合は、70歳以上（65.4%）で最も高く、40歳代（40.2%）で最も低くなっている。

なお、「ゆとりがある」と答えた人の割合が「ゆとりがない」と答えた人の割合を上回っているのは、60歳代と70歳以上となっている。




【職業別】

職業別にみると、「ゆとりがある」と答えた人の割合は主婦（59.6%）、その他（69.9%）で特に高く、「ゆとりがない」と答えた人の割合は、自営業（62.7%）で最も高くなっている。